

# 迫る! 国際規格化

## 上下水道サービスの新視点

### 世界水ビジネスと日本の役割

世界水ビジネスと国際ルールの必要性

日本において上下水道事業は、いわば官による直営という経営形態で行われている。世界的にも同じように官による直営が主である。

反面、そこには共通の課題も存在する。公共事業としての投資資金の不足、非効率な事業運営、脆弱なコスト意識、維持管理に関する長期戦略欠如及び資金運用等、多くの問題を抱えている。このような動きの中で、先進国や途上国では民営化を主体にした世界

グローバルウォータ・ジャパン代表

よしむら かずなり 吉村 和就

# 上下水道は経済の根幹

ル化すると、そこに国際的な取り決めが必要となるのは当然の動きである。

水ビジネスが進展し、フランス系のヴェオリア、スエス、ドイツ系のRW E社などがその市場の大部分を占めた。しかし、そのつど各国の国内法や慣習・文化の違いにより、多くの摩擦を引き起

入れたことになる。

国際ルール作りへの日本の貢献

紛争解決のための手段として求められたのがグローバルスタンダード、つまり上下水道サービスの国際規格の制定であった。ビジネスがグローバル

C224「上下水道サービス活動の国際規格化」は、簡単に言うと「上下水道の維持管理に関する国際指針」作りである。建設や処理方法は含まず、目標値等は定めない取り決めである。

二五カ国の専門家、論客が参加するこの国際規格作りには、日本代表团は第一回パリ総会から積極

日本が提案した業務指針、特に自然災害や環境に関する項目は高く評価された。

事実、世界で最初にISO/TC224の制定方針に基づいて提案された日本の「水道事業ガイドライン」は、規格制定中のマレーシア、韓国、カナダや改訂作業中のIWA(世界水連盟)が世界の人人々に認知されたことは、望外の喜びであった。

21世紀は水の時代 世界に貢献する日本

連載の最終回に当た



ISO/TC224のワーキンググループ3(上水道)議長(カナダ)に日本のガイドラインを説明する筆者(写真左)

り、普段から思っていることを述べさせて頂く。筆者は国連本部に勤務していた時、途上国の上下水道インフラの構築に携わり、安全な水がないために多くの幼児が死亡し、経済発展がままならない多くの国を見てきた。そこでの結論は、「上下水道事業は、その国の経済発展を支える根幹であり、いわば国益の追求であり、休んではならない」ということ。日本においてはIT革命など華々しい経済活動が毎日報じられているが、そのような経済活動に目を奪われ、国の根幹としての上下水道の重要性はほとんど忘れられた。二十一世紀は水の時代と言われ、優れた技術が求められている。日本の技術が世界に貢献でき、世界中の人々に感謝される日がくることを願っている。(終わり)

(終わり)